

# すがもらいぶらり

2022年7月5日 巣鴨図書館発行

すがもがーでんクイズ  
なんだかわかりますか？

今年、初めて育てているものばかり。どんな成長を見せてくれるのか楽しみです。



1



2



3



① 緑花  
② 洋花生  
③ おもちやかぼちゃ

先日図書館見学に来てくれた小学生から、「すがもがーでんには何種類の植物があるのか？」という質問がありました。数えたことが無かったのですが、いつの間にか30を超える植物がそれぞれの場所で育っています。いつか作りたいと考えている「ガーデンマップ」。楽しみにしててください。

## 7月の行事

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
新刊お話し会	休館					
10	11	12	13	14	15	16
新刊お話し会			すがも自然絵巻説明会			
17	18	19	20	21	22	23
新刊お話し会	赤ちゃんおはなし会				休館	
24	25	26	27	28	29	30
新刊お話し会						
31						
新刊お話し会						

すがも自然絵巻説明会

にぎやかな公共図書館フェスティバル

27日・28日のフェスティバルは、中央図書館が入っているライズアリーナービル2階あうるすぽっとで実施されます。スペシャルおはなし会始め、楽しいプログラムを用意してお待ちしています！

### 編集後記

今年の夏は、暑くて長い予感がしますが、図書館では、コロナの影響でできなかった行事が少しずつできるようになってきています。

夏の楽しみの一つにしていただけたら嬉しいです。(M)

## 百名城めぐり PART III (和歌山城)

今回は和歌山城を紹介します。和歌山城は、豊臣秀吉が築城を命じ「築城三名人」の一人、藤堂高虎が普請しました。生涯多くの城造りを手掛けた高虎ですが、本格的な城郭に取り組んだのは和歌山城が初めてでした。

関ヶ原の戦いで豊臣家が滅び、東軍の浅野幸長が城主となりさらに城の増築を行い、二代将軍徳川秀忠の時代に、西国の監視役として弟の徳川頼宣が城主、徳川御三家（尾張・紀州・水戸）の紀州藩が誕生しました。頼宣はこの丸を拡充し城下町を整備、法令や教育にも尽力し、紀州を豊かで住みやすい藩にした名君として、今でも地元の人々に愛されています。のちに紀州藩は八代将軍吉宗、十四代将軍家茂を輩出しました。

和歌山城は結晶片岩の岩盤と、紀ノ川が供給した砂丘の上に建つ大変珍しい平山城です。「砂の丸」という名の廓があり、砂丘上の城郭であることを物語っています。昭和初期には国宝に認定されましたが、残念ながら第二次世界大戦の空襲で焼失し、昭和33年コンクリートで復元されました。

でも、見どころは石垣。豊臣時代の野面積み（緑泥片岩）、浅野時代の打込みハギ（和泉砂岩）、徳川時代の切込みハギ（熊野花崗岩）が一度に見られて、築城の時代変遷を肌で感じることができます。皆さんも和歌山にいらしたら、是非和歌山城に足をのばしてみてください。



打込みハギ

野面積み



おすすめ本はこちら

『カメラが撮らえた古写真で見る日本の名城』  
中井均 他/著 KADOKAWA (521ナ)

## 食いしん坊司書の部屋



今回のテーマは、  
「郷土料理」

4月に新しく仲間になった司書Sさんは、前任山形で司書をしていました。その前は札幌にも10年以上。

そんなSさんの心に残る食べ物は？

美味しいもののネタはつきない札幌で驚いた食べ物があるそうです。それは、「お赤飯」。札幌のお赤飯は、甘納豆を入れて炊くそうで、色は食紅でつける真ピンク。初めて見た時は衝撃だったそうです。だいぶ長く生きている自称食いしん坊司書の私ですが、まだ見たことがないので、興味深々。

残念ながら、本でレシピを紹介しているものは見つけれなかったのですが、農林水産省の「うちの郷土料理」コーナーで47都道府県の1365種の郷土料理レシピを紹介しています。ご興味ある方は、チェックしてくださいね。

[https://www.maff.go.jp/j/keikaku/shokubunka/k\\_ryouri/](https://www.maff.go.jp/j/keikaku/shokubunka/k_ryouri/)

ちなみに、北海道では茶碗蒸しも甘いそうです。

郷土料理ではありませんが、北海道の海の幸は、やはり一味も二味も違うという話で二人で盛り上がりました。

そして山形。10年以上いたそうですが、食よりも驚いたのは、「言葉」だそうです。味わい深いお国言葉だったそうですが、リスニングは最後まで厳しかったとのこと…

食で言えば、あの有名なのは「芋煮」。河原で食べる芋煮の味を家でまねてもなかなかあの味は出なかったそうです。米どころ山形の美味しいお米と一緒に河原で食べる「芋煮」。味わってみたいものです。山形と言えば果物も有名。さくらんぼ・ラフランス…おいしいもののお話は尽きませんでした。まだまだ続く食いしん坊の旅。次回もお楽しみに。(M)

### おすすめ本

『日本の食文化 2 米と餅』  
関沢 まゆみ/編 吉川弘文館  
【383.8 二】中央図書館所蔵  
『郷土料理と生きる ～東北編～』  
全国料理業生活衛生同業組合連合会  
【596.21 キ】中央図書館所蔵  
『ご当地グルメと郷土料理』 金の星社  
【383】 巣鴨所蔵

## じぞうくんのそばくな疑問



じぞうくんの所にやってきたかも君。  
何やらいつもと少し様子が…



- じぞう そろそろ、どこかお出かけしたくなってきた！
- かも そうですね。あたらしい環境にも慣れてきて、ちょっと一息いれたいくなりますよね。
- じぞう であまり移動で疲れないお出掛けがしたいな。暑いし。
- かも では、「ガイドブックみたいに本を楽しむ」というのはどうでしょう。
- じぞう ガイドブック？1階の左手奥、真ん中辺りの棚に並んでいる、ラベルに【G】がついている本？
- かも はい。巣鴨図書館にあるのは”まっぴる”や”地球の歩き方”があります。実はガイドブックみたいに楽しめる本はたくさんあります。例えば『御朱印でめぐる東京の七福神』や『プレモダン建築巡礼』、『百年の品格 クラシックホテルの歩き方』『企画展がなくても楽しめるすごい美術館』など。すべてガイドブックという括りでなく、それぞれ神社、建築、美術に分類されていますが、写真が豊富で実際訪れることができるので、ガイドブックとしても楽しめるんです。
- じぞう なるほど。ぼくも探してみようかな。
- かも ぜひ。普段行かない棚も訪れて楽しんでみてください。！

### じぞうくんが読みたくなった本はこちら

『御朱印でめぐる東京の七福神』  
『地球の歩き方』編集室/著 (175 コ)  
『百年の品格 クラシックホテルの歩き方』  
山口由美/著 新潮社 (689 ヤ)  
『企画展がなくても楽しめるすごい美術館』  
藤田令伊/著 ベストセラーズ (706 フ)

## にぎやかな公共図書館フェスティバル

7月27日・28日二日間  
東池袋のあうるすぽっとで  
開催予定です。



楽しいプログラムがいっぱいです。  
巣鴨図書館もスペシャルおはなし会をします。  
ここでしか見られないとおきプログラム  
に向けて皆で準備中。

巣鴨図書館の登場時間は、  
7月27日10時20分～10時50分。  
お誘いあわせの上、是非見にきてください。

わくわく ドキドキの  
フェスティバル。

たくさんたくさん楽しんで  
もらえますように！  
イラスト作 S

